

もっと世界とつながる グッとくる マガジン

GM

GLOBAL MIND

GLOBAL MIND IS THE SPIRIT OF OSAKA INTERNATIONAL EDUCATIONAL INSTITUTION

[グローバルマインド]

64

Aug. 2019

学校法人 大阪国際学園
広報誌

[特集]

大阪国際学園

みらい 白書

活躍する、卒業生

ビーチバレー選手

村上 めぐみ^{さん}

学長×対談

大阪国際大学

大阪国際大学短期大学部 基幹教育機構長

森上 幸夫^{教授}

教養としての芸術「雅楽」「オーケストラ」「吹奏楽」

学園HEAD LINE／研究室探訪

大阪国際学園は、建学の精神である「全人教育」を基礎として、礼節を重んじ、世界に通じる心豊かな人間を育成します。

I 創立90周年記念事業を推進

創立90周年の マークとスローガンが完成

創立90周年を推進するにあたり、指針となるシンボルマークとスローガンを作成。大阪国際学園は、90年の長きにわたり地域社会の皆さまに支えられ、多くの有縁の方々のご理解とご支援のもとで教育活動を展開し、今日に至りました。そんな伝統の継承を誓い、100周年に向けて一丸となつて歩んでいく決意を表現しました。シンボルマークはアンバーサリを象徴するリボンをモチーフに、スクールカラーを元アレンジしました。



こころを結び、未来へ翔ける

集 大阪国際学園 白書

に向けて 行動します

90周年を迎えました。100周年という成すべきは何でしょうか。建学の精神ること。さらに大きく飛躍するためを入れること…光輝く未来に向かって

II 「全人教育」 を考える

大阪国際学園グループにおける 「建学の精神」とは

大阪国際学園の創立当時、設立の目的として「人間を作る教育」を提唱しています。人間とは「知情意の円満に達した人」であり、「人間を人間らしく育む教育こそ本学の「建学の精神」です。そして1992(平成4)年、「全人教育」という言葉で確認し、今日に至っています。

「全人教育」を理解するための 理念研修を実施

建学の精神を机上の理念にしないように…本学園では2018年、教職員に向けた理念研修を実施しました。「全人教育」とは何か?「全人教育」を実現するためにどんな指標を持つべきか?…有識者を招いた講義に加え、グループごとのディスカッションを行い、「一人ひとりが自分たちの「コア・バリュー」について改めて考えたのです。

大阪国際学園のコア・バリューとは何か ～「理念研修」の最終発表より～

●大学・短期大学グループ

「すべての汗は学生のために」をスローガンに教職員が一丸となって行動することが必要だと考えました。「学生と教職員のコミュニケーション」「多彩な学びの機会」「学習意欲を引き出す教育」を重点分野に、実践的な取り組みとして共有スペースの工夫、課外教育の企画、教職員のお互いの仕事の理解を深めることを提案しました。

●中学・高校グループ

本学園の園児・生徒・学生が「幸せに暮らせる力」を身につける機会を与えること…がコア・バリューだと考えました。そのために「多様性への見識を広める、認める」「地域との関わり」「精神力・体力をつける」というゴールを想定したアイデアを提案しました。

●こども園グループ

人と人のつながりを大事にし、感謝の心を持ち、多種多様な価値観を認める人になることが「全人教育」であると考え、「和・輪・羽(わ・わ・わ)」と名付けた活動を提案。学園内が深い絆で結束し支えあふ「和」、地域への感謝の気持ちと広がり「輪」、学園から大きく羽ばたく未来への「羽」を意味しています。

III 「ふれ育」でみんながつながる

大阪国際大学短期大学部

×

大阪国際滝井高等学校

×

大阪国際大和田幼稚園

大阪国際大和田幼稚園、大阪国際滝井高等学校、大阪国際大学短期大学部。この3校が“Touchable Education”をテーマに「ふれあう保育・教育」を展開する協定を結びました。通称「ふれ育」です。

短大生にとっては、日頃の専門的な学習を活かして幼児教育や食育の現場を知る機会。高校生にとっては、園児たちとふれ合い自分の進路を確かめるきっかけに。そして園児たちは、様々な年代の人と接することで社会性を学び、一人の人間として対等であり尊重される存在だと認識します。世代の違う人々がつながり一緒に成長していく…まさに全人教育を体現する、本学園ならではの取り組みだといえるでしょう。



特

大阪国

みらい

100周年 私たちは

2019年、大阪国際学園は創立大きな節目を目前にして、私たちがに立ち戻り、先人の思いを再確認す世界に通じる心豊かな人材育成に力翔けて行きます。



IV 社会とつながる 多彩な取り組み

地域とつながる

あらゆる領域で

大阪国際学園が教育・研究機関としてだけではなく、地域と密接に関わり、まちづくりや地域の健康、教育、楽しみになくてはならない存在になりたい。守口市で唯一の大学・短大としてできること……本学園は様々な地域交流の機会を創造し、活動を行っています。



わくわくランド

「子育て支援事業」として、地域の子どもたちと保護者を対象に、「遊び」や「ふれ合い」の場を広げる活動を展開しています。幼児保育学科教員の専門性を活かしたワークショップを用意し、保育者を目指す学生も参加して、地域の子育てを応援します。



OIU/OIC キッズキャンパス

子どもたちへの学習支援と家庭でも学校でもない新しい「居場所」づくりをテーマに、守口市の小学生を大学のキャンパスに招待し、お昼ご飯を食べたり、毎月違うアクティブプログラムを行っています。一緒に過ごすのは学生ボランティア。子どもたちにとって、学生は兄や姉のような親しみやすい存在です。



公開講座

大学の知見を広く世間に公開し、地域にお住まいの方々が幅広い分野の知識や教養に触れられる場を提供しています。教員それぞれの専門分野で各テーマに沿ったユニークな講座を、前期・後期それぞれ全6回（月1回）開催しています。受講者には修了証も授与され、とても人気です。



地域防災活動

キャンパスが地域の指定避難所であることから、防災・サバイバル・クラブ「Preppers プレppers」の学生たちが中心となって、地域の皆さんと一緒に考える防災啓発イベント「OIU/OIC防災フェスタ」を毎年開催しています。その他にも、自治体と地域コミュニティと連携した防災啓発教室など様々なイベントを行っています。

地域とつながる取り組み例



豊かな発想力で
企業とつながる

2019年、「食」からだ、こころのスペシャリストをめざす人間科学部人間健康科学科は、カゴメ株式会社と産学協業で「食と健康プロジェクト」をスタートさせました。創業120年で培った「食と健康」のノウハウを持つカゴメと、学生たちの発想力と行動力をコラボレーションさせ、「コップンの野菜不足をゼロにする」をテーマに若者の食生活改善に取り組むというスケールの大きなチャレンジです。毎年、見直しながらか3年間かけてプロジェクトを推進していきます。

この他にもパートナーシップ協定を結ぶガンバ大阪をはじめ、企業との産学協働プロジェクトは多数進行しています。



「食と健康プロジェクト」キックオフミーティングと講義の様子(4月)

自ら進んで
世界とつながる

生きた語学力や国際的な感性はもちろん、優しさや思いやりを学べるように…大学生や高校生が、グローバルなボランティアに参加できる機会を多く設けています。例えば、関西国際空港を利用する外国人旅行者をアシストする取り組み「関西空港ボランティア(AKV)ーAssisting at KIX as Volunteer」は、切符の買い方や乗換案内などのサポートをしています。また、長年ベトナムを中心にアジアで無償の医療活動を続けられている眼科医、服部匡志先生のもとでお手伝いする「ベトナム医療ボランティア」には、滝井高生と大和田高生が参加。学生や生徒たちが、困っている人にためらわずに手を差し伸べる行動力を身につける貴重な機会であり、世界の現状を知り、将来を考えるかけがえない経験です。



関西空港ボランティア(AKV)



ベトナム医療ボランティア

VOICE

英語のコミュニケーション能力と
チャレンジ精神を学びました!

学生リーダー
辻野 志帆さん

「英語を話せるようになりたい、コミュニケーション能力を高めたい」という気持ちでこのボランティアに参加しました。最初はあまり英語が話せず悔しい思いもいましたが、今では語学力もついて積極的にリーダーとして後輩学生たちをサポートできています。このボランティアがきっかけとなり、中国語・韓国語にも興味を持ち、もっと勉強したくなって短期大学部から大学へと内部編入しました。ボランティアを通して知ったのはチャレンジすることの大切さ。今後もチャレンジ精神でがんばっていきたいと思います。



「基幹教育機構」は、本学の教養教育に新たな風を吹き込みます。

2 私たちは、学生を育てることで地域への社会的責任を果たすのです。

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部 学長

宮本 郁夫

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部 基幹教育機構長

森上 幸夫

教授

プロフィール (もりかみ ゆきお)

大阪国際女子大学、大阪国際女子短期大学における4年間の非常勤講師を経て2001年4月より大阪国際女子大学人間科学部講師に着任。その後、大阪国際大学人間科学部准教授、国際関係研究所研究員、人間科学部教授を経て2019年4月より基幹教育機構長に就任。専門は社会心理学で、日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミクス学会に所属。



2019年に誕生した 「基幹教育機構」とは。

宮本 森上先生は2019年、本学において新たに起ち上がった「基幹教育機構」の機構長に就任されました。この機構は、本学がこれから向かうべき方向を体現する、極めて重要な存在だと私は思っています。あらためてその概要を紹介していただけますか？

森上 一言でいえば「教養教育」の充実を図る中枢組織です。機構には語学、情報、キャリア、日本語、教養という5つの教育部会を置き、関連科目や教材の開発を行います。

宮本 大学は専門性を追求する一方で、知識のベースとなる情報リテラシーや思考力、コミュニケーション能力などを涵養すべきだという風

潮が強まっています。文部科学省も、グローバル化や情報化が進む世の中で、教養教育の重要性を強調していますね。基幹教育機構は、そのような時流をふまえた組織だといえるでしょう。

森上 はい。もともと本学には5つの部会をまとめる「教養教育機構」があったのです。しかし「さらに強力なリーダーシップで各部会の連携を強めて、全学的に教養教育を推進していく」という命題を学長からいただき、基幹教育機構の設立となりました。

宮本 私が学長に就任して今年で6年目です。今まで多くのドラスティクな改革を行ってきましたが、2019年はいよいよ次のステージに進む時だと感じています。それは本学が大きく飛躍する取り組みであり、学生たち1人ひとりが劇的なブレイクスルーを体験する試みでなくてはならない。そんなチャレンジの第一歩が、基幹教育機構なのです。

学生達を人間的に 成長させるカリキュラム。

宮本 学生たちに提供する具体的なカリキュラムは、これから詰めていくのですね。

森上 そうです。ただ単に「授業の内容」を考えるだけでなく、学生生活そのものや学びへの姿勢を変えていけるような、人間的に成長できるような、実践的プログラムにしたいと考えています。

宮本 面白いですね。

森上 いくつか核となる取り組みは固まりつつあります。1つが「初年次教育」を重視することですね。入学してすぐにキャリア意識や学びへの姿勢を身につけることで、大学生生活を有意義に過ごせます。

宮本 リメディアル教育といわれるものですか？

森上 基礎学力の底上げですね。もちろん、それもあります。

宮本 他にはどんな初年次教育を考えているのでしょうか？

森上 きちんと挨拶をする。時間や約束を守る。周囲を思いやる。正しく生きる…そんな、人としての根本的な部分にも踏み込んでいこうと考えています。

宮本 非常に大切なことです。

森上 もう1つの取り組みが「自校教育」です。私学ということもあり、本学の成り立ちや社会的意義などを学べる自校教育を展開します。

宮本 建学の精神である「全人教育」の理解も、その一環ですね。本学が今後、最も力を入れたいテーマです。全人教育とは「人間を人間たらしめる」ものだとは私は考えます。凛とした人材、強くたくましい人材。そんな人間を社会に送り出すのが大学の役割ではないでしょうか。

森上 人としての品性、品格を高める…。まさに令和の時代にふさわしいと思います！

人づくりという 地域貢献を果たす。

宮本 自校の歴史だけではなく、日本の伝統文化を学んだり、異文化や多様性理解を身につけるなど、大阪国際大学らしいグローバル教育も今以上に推進してほしいですね。

森上 もちろんです。基幹教育機構は全くゼロからのスタートではなく、これまで本学が行ってきた良い取り組みは進んで踏襲していきます。例えば「上級生が下級生を教える」というスチューデントアシスタント制度もそうです。

宮本 学生が学生を教える、どちらも学びになりますからね。

森上 さらにキャリア教育、語学教育…課題はまだあります。多彩なミッションをクリアして、数年後には「大阪国際大学の卒業生はやつぱり違うね」という確固たる評価を実現できればと願っています。

宮本 今年で90周年を迎える学

園は、やはり地元から入学する学生が多い。彼らをしつかりとした社会人に育てるという地域への社会的責任を我々は背負っていると肝に銘じたいですね。

森上 全人教育を体現したというか、体にしみ込んだ学生が理想でしょうね。その上で学部学科の専門教育を身につけて社会で生き抜いてくれば、本学で学んだ意味があるんじゃないかと私は思います。

宮本 松下幸之助の言葉でいえば「大きい耳、小さい口、優しい目」。人の意見を素直に聞ける耳、余計なおしゃべりをしない謙虚な口、そして人の痛みがわかる優しい目。そういう人を育てましょう。

森上 オール大阪国際で取り組みます！



バレーと教職課程の勉強に
打ち込んだ日々が宝物。

大学時代をひとことと言えば、充実の日々！いちばんの記憶はバレー部に所属して練習に打ち込んだことですが、もともと体育教師を目指して入学したので教員免許を取得するため単位取得も疎かにできず…バレーと勉強の両立で、毎日があつという間に過ぎていきました。印象に残っているのは母校での教育実習。運動が苦手な生徒もスポーツが好きになれるよう、指導案を考えて工夫したんです。「先生、面白かった！」と笑顔で言われた時の感動は忘れません。教室で授業するよりも私はやっぱり体を動かして教えるのが好きだと改めて実感もしました。また、バレー部や学科の仲間達と過ごす時間もすごく楽しくて。たくさんの方達ができ、様々な経験をしました。全てが忘れられない宝物ですが、中でも「挑戦する精神」や「あきらめない心」を身につけられたことが今の自分につながっていると思います。



あきらめない心を
育んでくれた大学時代が
今につながっている

ビーチバレー選手

村上 めぐみさん

大阪国際大学 人間科学部 スポーツ行動学科 2008年卒業

体が小さくても世界と
戦えるのがビーチバレー。

ビーチバレーを始めたのは卒業後です。2009年の新潟国体に向け、開催地の上越市で社会人チームが結成されることになり、テストを受けたら合格したのです。体育教師になる夢はもちろん持っていたのですが、それよりもバレーをもう少し極めてみたいという思いが強くて。後悔というか、気持ちの中に不完全燃焼な気持ちが残っていたのです。経験のないビーチバレーでしたが、1年間の練習の末に国体で優勝。その後も順調に勝利を重ねてきました。2018年は日本ランキング2位、オリンピックを控えた今年は日本代表の強化チームに入ることができ、ほぼ毎週のように海外に遠征しています。

ビーチバレーの魅力は、身体能力やパワーだけでなく、経験だったり戦略の良し悪しが勝利につながる。私は165cmと小柄ですが、すごいスパイクが打てなく

ても世界で戦えるんです。もちろんブレッシャーは苦しいし、練習はすごくハードです。でもやめようと思わないのは「もっとバレーを頑張ればよかった」という大学時代の後悔をくり返したくないから。2020年のオリンピックを目指して全力疾走しようと思っています。その後ですか？今度こそ、夢だった体育教師になるのもいいですね。



プロフィール

1985年生まれ、福井県出身。大阪国際大学卒業後、社会人ビーチバレーチーム「上越マリナブリーズ」に入団。その後、株式会社オーイングに移籍。現在のペアである石井美樹選手と数々の世界大会で活躍している。



雅楽とは……

中国大陸や朝鮮半島から伝わり、日本で独自の発展を遂げた雅楽は、「世界最古のオーケストラ」とも言われています。古来から皇室の保護の下に伝承され、宮廷や寺院・神社において盛んに演奏されましたが、現在では民間の雅楽の演奏団体も増えてきています。主な演奏形態には、楽器だけを演奏する「管絃」、音楽とともに舞を奏する「舞楽」、雅楽器の伴奏をつけた声楽曲「謡物」の三つがあります。

楽器は、三種の管楽器（笙・篳篥・龍笛）、二種の絃楽器（琵琶・箏）、三種の打楽器（羯鼓・太鼓・鉦鼓）で編成されます。メロディを奏でるのは管楽器で、打楽器と絃楽器はリズムを示します。特に、雅楽には指揮者がいないため、曲の始まりや終わりを合図したり、曲の速度を整えるなどの重要な役割を打楽器が務めます。そのため、西洋音楽のオーケストラではメロディを担当する楽器が前列に配置されるのに対し、雅楽の場合は、打楽器が最前列に。他の楽器の演奏者から、手の動きが見えやすいように…ということですね。



雅楽・オーケストラ・吹奏楽

日本の伝統音楽である「雅楽」。大阪国際大和田高校では現在、学園の創立90周年記念式典のオープニングに雅楽演奏をするため、生徒たちが練習に励んでいます。ところで「雅楽」ってどんな楽器を使うのでしょうか？オーケストラや吹奏楽との違いは何でしょうか？そんな豆知識をご紹介します。

吹奏楽とは……

吹奏楽とは文字通り「吹いて奏でる楽器」、つまり木管・金管楽器に打楽器を加えた編成での合奏を指します。オーケストラとの大きな違いはバイオリンなどの弦楽器がないこと。ただし、「弦バス」と呼ばれるコントラバスはよく使われます。

楽曲は、クラシック曲のアレンジ、ポップス、ジャズ、映画音楽など、親しみやすいものが主流です。吹奏楽は昔、軍隊の号令やマーチに用いられていたため、その音量を生かせる曲に向いているようです。

ちなみに「プラスバンド」は金管楽器と打楽器のみの構成。木管楽器と弦楽器はいないことが、吹奏楽との違いです。



オーケストラとは……

オーケストラは日本語では「管絃楽団」と訳されるように、弦楽器と管楽器、打楽器で構成されています。人数の割合は弦楽器が圧倒的に多く、管楽器は吹奏楽のように一つのパートを複数の人数で演奏することではなく、例えば1stクラリネットといえ一人です。つまり弦楽器がご飯、管楽器がおかず、そして打楽器はスパイスといったところです。演奏される曲はもちろん、映画音楽やポップスのアレンジもありますが、やはり定番はベートーヴェンやチャイコフスキーのような、元々、オーケストラのために書かれたものが中心となります。



創立90周年記念式典の準備が進行中

2019年11月、創立90周年を祝う記念式典を挙げるために、各所で準備が着々と進行中です。セレモニーのオープニングを務めるのは、大和田高校生による雅楽の演奏。大和田幼稚園児による太鼓演奏や、滝井高校の軽音楽部の演奏とダンスもあります。



大学・短大

OIUクラブレポート

ラグビー部

関西大学ラグビーCリーグ(3部)で、1993年の創部以来、初優勝を果たし、Bリーグ(2部)へ昇格! また、Cリーグ優勝に伴い、第69回全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会に近畿地区代表として初出場し、ベスト4進出。

ソフトボール部(女子)

春季2部リーグ優勝を果たし、秋季リーグより1部復帰! この優勝にはたくさんのきっかけがあり、「『積極的な気持ち』がチーム全体に広がっている」という。9月から開幕する秋季学生ソフトボール1部リーグ戦で戦えるチーム力を持って全員で戦っていききたい、と抱負を語った。

陸上競技部

昨年、第95回関西学生陸上競技対校選手権大会において、男子2部総合2位となり、創部以来初の1部へ昇格し、今年は1部校として出場。本年度も短距離種目を中心に自己ベスト更新者続出。男子100m石田那月さんが第103回日本陸上競技選手権大会に出場。9月に行われる日本インカレの参加標準記録を8名が突破中。



芸術文化教育センター主催行事(華道部・茶道部の学園祭参加)



芸術文化教育センターでは、「自国の文化の素晴らしさを知ってもらいたい」という思いから、日本文化の普及に力を注いでいます。2018年10月20日の学園祭「優花祭」にて、華道部はハロウィンをテーマに花の展示をし、多くの来場者にお花の持つ魅力を伝えました。茶道部は立礼式にてお点前を披露しました。



短大、滝井高校、大和田幼稚園 三者連携 イベント「ダンボールで遊ぼう」を開催!

昨年に続き、2019年2月26日、短大・滝井高校・大和田幼稚園が、保育・教育・研究連携協定を締結し、6月15日に、三者連携イベント『ダンボールで遊ぼう』を開催しました。約90名の園児たちが、お兄ちゃん、お姉ちゃん先生と一緒に段ボールを切ったりつなげたり。

また、保護者には「楽しく食べる子どもに」をテーマにライフデザイン総合学科の木下佳代子講師による記念講演会が開催されました。



滝井高校・大和田高校

「ココロの学校」 ～眼科医・服部匡志先生講演会～



5月31日、滝井高校・大和田高校の生徒を対象に、両校生が「ベトナム医療ボランティア」でお世話になっている眼科医・服部匡志先生の講演会を実施。「相手を助けることに遠慮はいらない」という信念のもと治療を続ける服部先生は、とても気さくな人柄で時に笑いを交えながら話してくださるものの、その言葉ひとつひとつに重みがあり、とても心に響く講演会でした。



大学・短大

Challenge The Global Mind 学生チャレンジ制度 採択企画発表

学生達の「やってみたい」をサポートする、OIU・OIC独自のプログラム。書類審査、プレゼンの2段階を経て、奨励金を獲得し、企画を実現できる制度。

★学生チャレンジ制度採択企画

テーマ/代表	I Have a Dream. ～第10回 世界大学生リーダーシップシンポジウム in Malaysia～ 代表者：大坂 穂花
企画概要	主 催：Humanitarian Affairs(NGO団体、本部:ロンドン) 日 程：2019年8月1日～8月7日 開催地：マレーシア(クアラルンプール) 目 的：世界の貧困、差別問題やボランティア活動について考える 参加予定者：世界の大学生約1,000人
テーマ/代表	私たち同世代の大阪・ビーチクリーン活動 ～小さなゼミの大きな挑戦～ 代表者：古木 舞菜
企画概要	大阪の他大学の学生と協働で、大阪のビーチを綺麗にするためのクリーン活動を実施。8月に沖縄でクリーン活動の内容やビーチの美しさを維持するためのノウハウを学習し、9月に大阪でクリーン活動を実施する予定。 <クリーン活動を行うことの目的> ①大阪のビーチに愛着を抱く人を増やすこと ②大阪国際大学の知名度をあげること ③コミュニケーション能力の向上を図ること

こども園

カレーライス☆パーティ

6月20日、大和田幼稚園の年長組さんがカレーパーティを開催。自分たちでカレー作りの準備をして、玄関でのお出迎えからアテンド、テーブルセッティング、注文を伺うなど、全て子どもたちが行いました。招待されたお客様は心のこもったサービスを受けて温かい気持ちになり、園児たちは自分たちが誰かに喜んでもらえることを体験できた、とても素敵なパーティでした。



最新情報は各校公式サイト、Facebook、Twitter、インスタグラムで発信中!

大阪国際学園

検索

■ 大阪国際大学
<https://www.oiu.ac.jp>

■ 大阪国際大学短期大学部
<https://www.oiu.ac.jp/oic>



■ 大阪国際滝井高等学校
<https://www.takii-h.oiu.ed.jp>

■ 大阪国際大和田中学校・高等学校
<https://www.owada-h.oiu.ed.jp>



■ 幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園
<https://www.owada-k.oiu.ed.jp>

■ 大阪国際学園 <https://www.oiei.jp>





研究室探訪

大阪国際大学
経済学部経済学科
山本 明志准教授 研究室



研究室ドアのほぼ全面に「完走証」が貼られている。2015年から走り出した各地でのフルマラソン大会完走の証しだ。「ダイエットで、カミさんについて走ったのがきっかけです」と山本明志さん(41)。博士論文の執筆などで運動することもなく、体重は85kg近くにもなっていた。3つ年下の妻直子さんがマラソンを始めたこともあって、「一緒に走るようになり、体重は10kg減った。朝5時頃から滋賀県大津市の自宅近くの琵琶湖周辺を走り、

1時間40分かけて大学へ通う。学生には「先生も遅刻せずに頑張っている」と話す材料でもある。専門はチベット、中国、モンゴル地域を中心とする東洋史で、2013年4月に講師になった大阪国際大学ヒジネス学部で、「アジア史」などの教養科目を担当。現在2年次生以上に「東アジアの歴史と社会」「国際地域文化史」などの講義を行っている。歴史が好きで、岡山大学文学部2年の夏休みに、アルバイトでお金を貯め、チベットへ40日間旅行した。ヒマラヤ山脈北麓に育まれた独自の文化に魅了された。岡山大学では、チベット語を教える人にも出会い、大阪大学の大学院では、歴史学研究の研鑽を積んだ。13〜14世紀、モンゴル帝国はユーラシア大陸の大部分を支配していた。「世界で初めてのグローバル帝国です。当時の社会の具体像が知りたいかった」。それが、現在も一貫した研究テーマになっている。

昨年2018年夏、文部科学省の科研費の研究チームでモンゴルへ行ったが、その国土の広大さに改めて感動した。「1時間車で走ってもほとんど遊牧民に会わなかった」。モンゴルは、日本の大相撲界でその力を多くの力士が発揮している一面もある。「日本は元寇(蒙古襲来)に遭い、猛々しいという印象があるかもしれませんが、気質として粘り強いのもかもしれません」。

研究室では、「完走証」のほか、チベットの仏画や書籍も目に入る。小学生のころからファンだという広島カープが昨年、セリーグで3連覇した時のスポーツ紙も貼られている。マラソンとカープ。チベット・モンゴル研究者の別の一面も見えて来る。いま、京都大学人文科学研究所の研究チームで編集を進めている「チベット学概論」(仮称)というチベット研究の入門書を年内に仕上げることに取り組む。マラソンでは、3時間21分18秒の自己記録更新と毎年1歳刻みで出される「全日本マラソンランキング」で、現在8592人中870位なのを上位1割台に上げる目標も持っている。



独白

大阪国際学園
理事長 奥田 吾朗

自然界の宝を見る目

昨年七月、修学旅行に同行して北海道へ行く機会があった。道中央部で「ありのままの自然」が売りの占冠(しむかづぶ)村で、生徒たちをクマが棲む山へ案内していただいた。クマの糞を見て、クマが食べる木の実が十分でなかったことなど自然と動物の共生について説明していただいた。見学のあと、「何か聞きたいことはありますか」という問いに、誰も手を挙げなかった。質問できなかったのは、遠慮や引き込みがあったのだろうが、自然の中に足を踏み入れて、何を感じたのか、自分の言葉で表現して欲しかった。山には色んな草木が生えている。背の高い木、低い木。それぞれが何億年という歴史をたどり、今を生きている。自然界は探求すべき知識の宝庫である。その中に何かを見出すことが「都会っ子」達にはできなかったらうか。

学校へ行つて、帰れば塾。スマホを見る生活の中で、物事に感動するという場面は、毎日の生活から姿を消しているような気がしてならない。どの動植物も目に見えない能力を持っている。それは人も同じだ。それを理解できる力を子どもたちには持つてほしい。その力がこれからの日本社会を支える。海外の人とも渡り合える力になる。「宝を見る目」を養えるような教育でありたい。

GM四コマ劇場 vol.8

楽器を始めてみよう!



作者:うめ

- 本誌に記載の学年、肩書き等はすべて情報収集時のもので、発行時とは異なることがあります。ご了承願います。
- 本誌へのご意見、お問い合わせ等は大阪国際学園企画・広報室までご連絡ください。

各学校の最新ニュースは公式サイトでご覧いただけます。

大阪国際学園

検索



この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で作られています。



学校法人 大阪国際学園

大阪国際大学
大阪国際大学短期大学部
大阪国際滝井高等学校
大阪国際大和田高等学校
大阪国際大和田中学校
幼保連携型認定こども園
大阪国際大和田幼稚園